

令和6年1月定例記者会見

令和6年1月9日（火）午前11時

<主な発表項目>

・元日午後4時10分に体験したことのない大きな地震が発生した。被災された皆さまにはお見舞い申し上げます。当日も職員は自主的に集まり対応してくれた。幸い砺波市は被害は少なかったが、いろんなところで災害が発生しており、県内でも深刻な状況になっている。災害はいつ起こるかわからない、備えていてもこのような状況になる。

また、余震というものは精神的にこんなにもダメージを与えることを痛感した。これ以上に広がらないことを願うとともに、気を引き締めて対応していきたい。さらに、今回のことで気がついたことを今後反映していきたい。

・他市へ職員派遣等の対応をしている。

給水車、被災建築物応急危険度判定、氷見市避難所への応援職員、DMAT派遣。

1月2日から氷見市へ給水車、1月6日から高岡市、氷見市に応急危険度判定士を派遣している。

また、8日、9日には氷見市ふれあいスポーツセンターの避難所にも職員を派遣し、避難者への支援助物資の配給や避難者の受け入れ、炊き出し支援を行っている。

DMATも派遣した。

今後も要請があれば、協力していきたい。

○ 春を呼ぶチューリップ展について

チューリップ四季彩館では、1月25日（木）から2月12日（月・振休）まで、2024となみチューリップフェアのプレイベントである、「第38回春を呼ぶチューリップ展」を開催する。

春を呼ぶチューリップ展は、3月16日の北陸新幹線敦賀延伸開業を記念し、「北陸の魅力」で会場装飾を行うほか、促成栽培で咲かせたチューリップ 1万本（鉢花5,000本、切花5,000本）とプリムラなど、早春の花々を配置し、ひと足早い春の訪れを体感できるイベントである。

また、会場内には毎年好評のミニSLに代わり、8年ぶりにミニ新幹線が走り、子どもから大人までご家族で楽しんでいただける。そのほか、期間を通してチューリップ切花の販売を行う。

○ 新年度一般会計予算編成について

・新年度一般会計の予算規模は、現在、財政課の査定段階では230億半ばであり、合併後最大の規模となっている。これは、特定の大規模プロジェクトによるものではなく、会計年度任用職員の給与制度の改正をはじめ、人件費の増加の影響が大きく、物価高騰の影響も少なからずあるが、児童手当の対象年齢の拡大など扶助費の増加にも対応していく必要があるなか、脱炭素やDXの推進など、社会的要請にこたえる事業にしっかりと取り組んでいく。

また、多様な新市誕生20周年記念事業を展開することとしている。

他方、歳入については、市税は増額、地方交付税も底堅いと見込んでおり、過疎債をはじめ有利な市債を活用する一方、これまでの方針どおり交付税措置のない市債の借入をせず、後年度の負担軽減を図りたい。